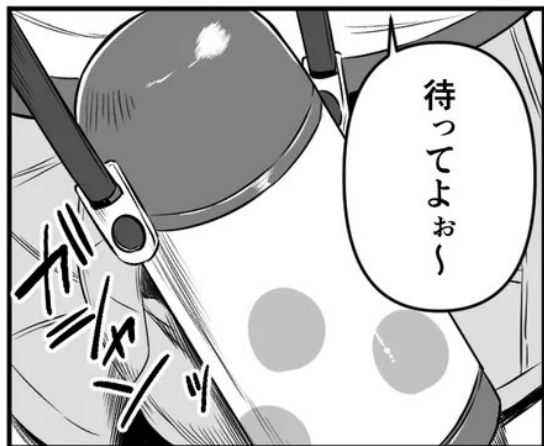






やっぱ
気持ちいいね
この場所

はー



それが
いいんじゃない！

何にも
ないけどな



遊び相手だって、
本当は同年代の
男がよかったさ



この何もない
田舎じゃ
俺達は少しでも
気がまぎれる事を
探そうと必死だった

ここは
俺と奏の
秘密の遊び場

だけど
何もなく
無駄に
だっ広い
この田舎で

たまたま近所に
住んでたのが
ふたつ年下で
チビでガキっぽい
この奏だったんだ

はい！
創ちゃん

お茶！

いらねーよ
そんなの

水筒なんて
ガキっぽい！

大人は
水筒なんて
持ちあるか
ないの

まったく
お前も少しは
大人になれよ

むう！
またそんな
意地悪言ってー！

ほらッ！
どうせガキの
お前じゃ
大人の俺に
追いつけないだろっ！

あつ待て！

やったなー！！

そう、
この田舎には
何もない

だけど





創ちゃん…
この産土様

なんだか私達と
お友達に
なりたいみたい…！



ばッ…

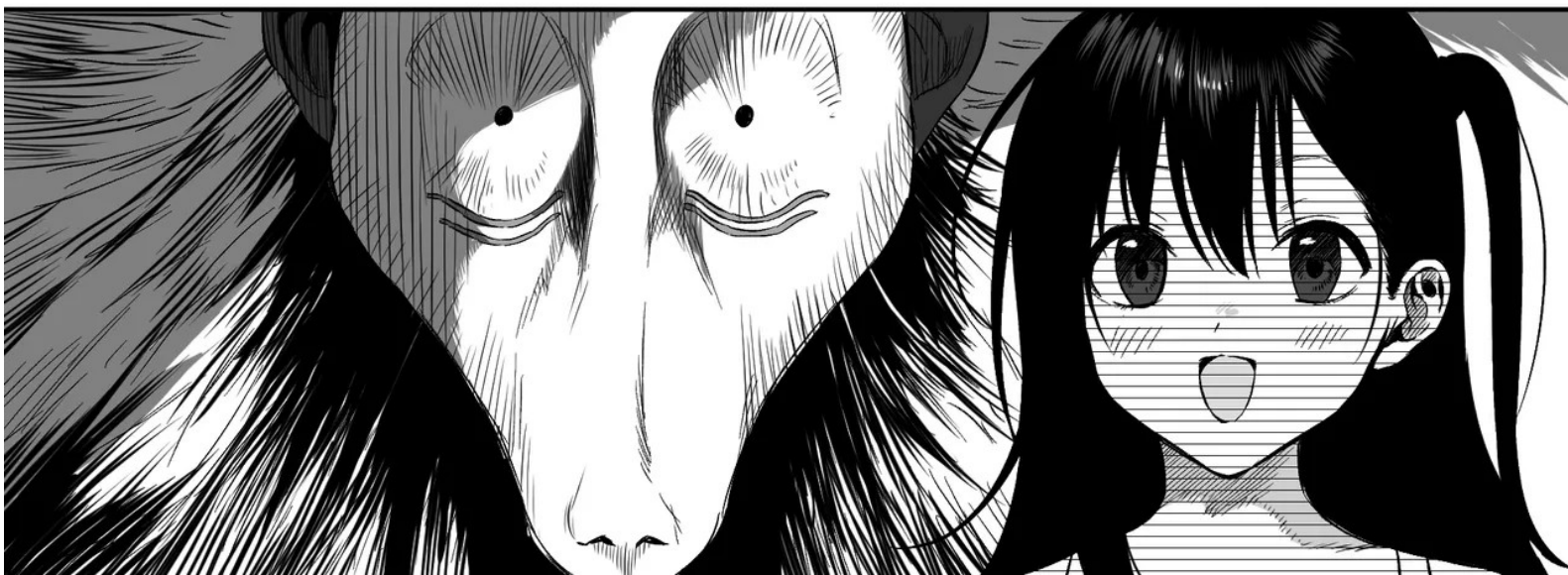
お前自分が
何言ってるのか
わかってんのッ！

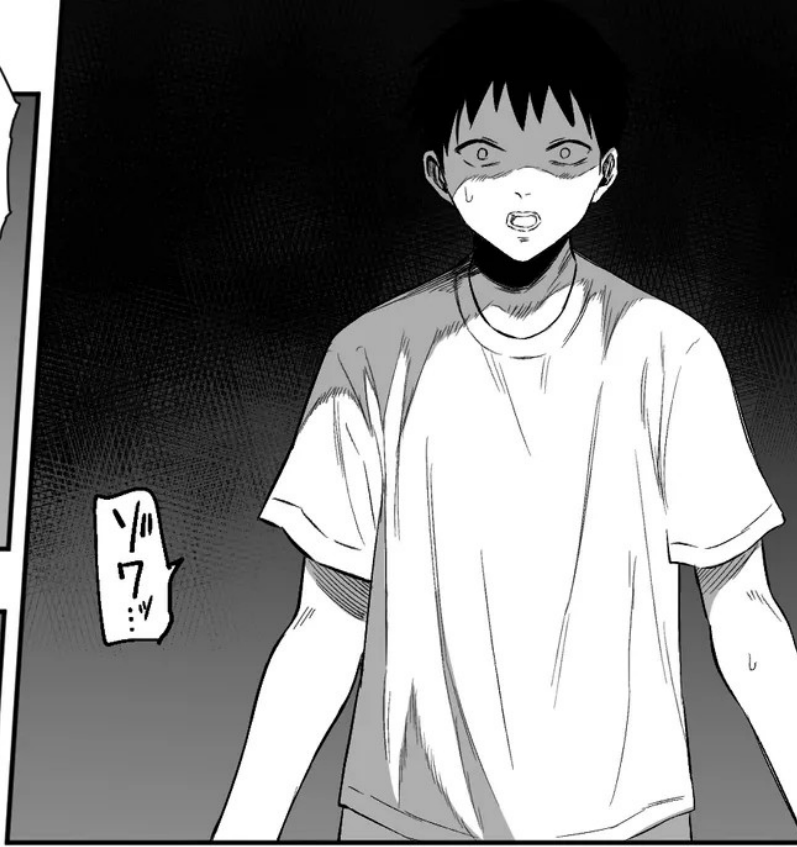


友達って
お前何言ってる…

そうだ！
今から三人で
遊ばない？

ここなら
誰かに見られる
事もないし！















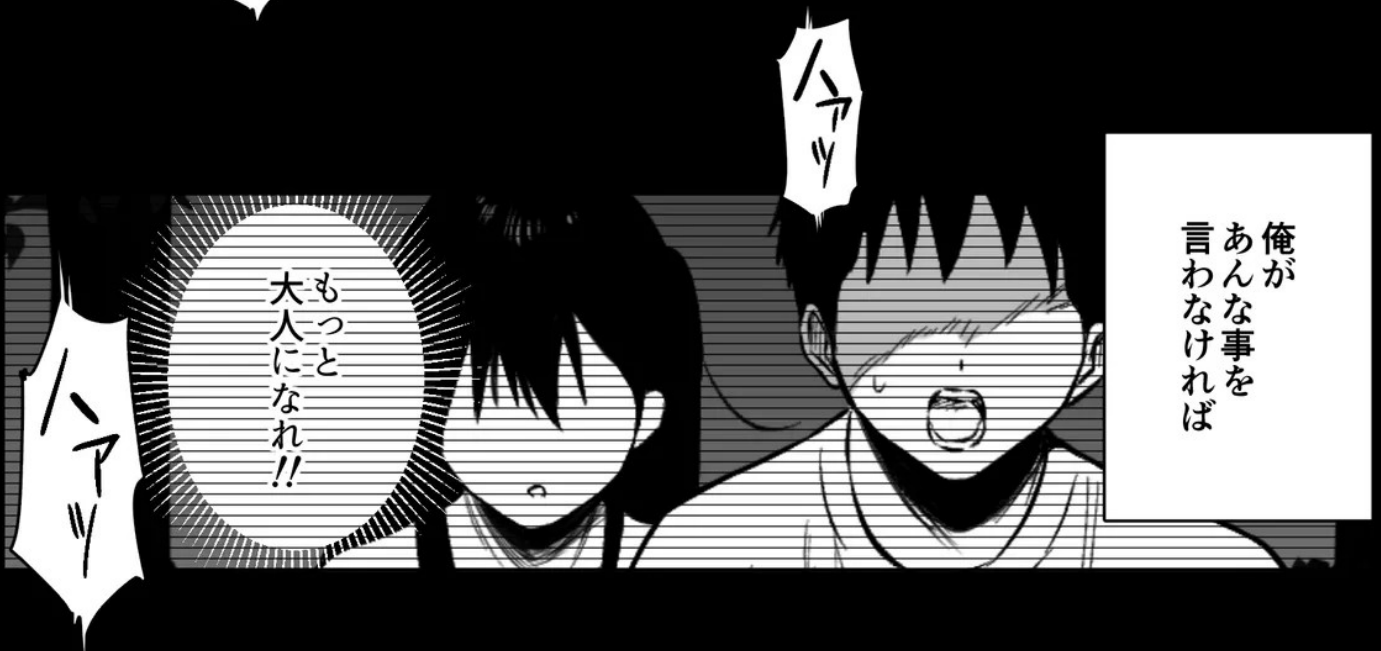


あの時俺が
もっと強く
言っておけば
よかったんだ

創ちゃんには
関係ないよ

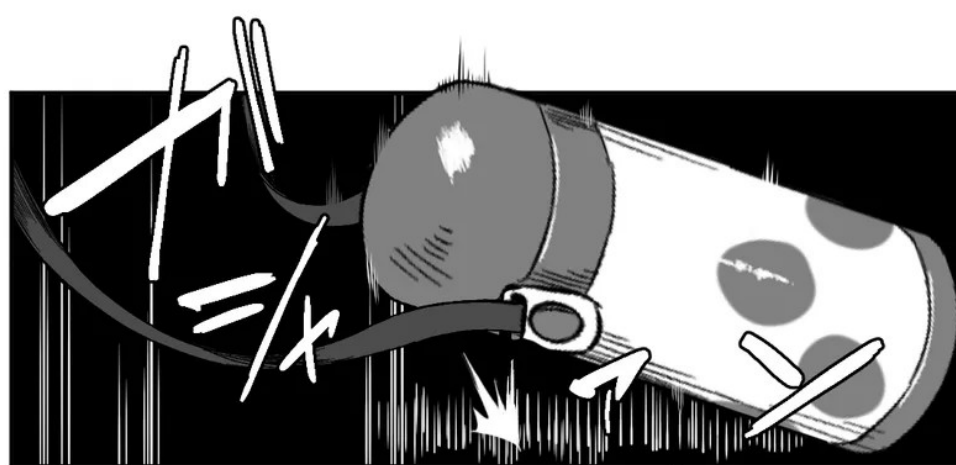


無理やりにでも
奏を止めておけば



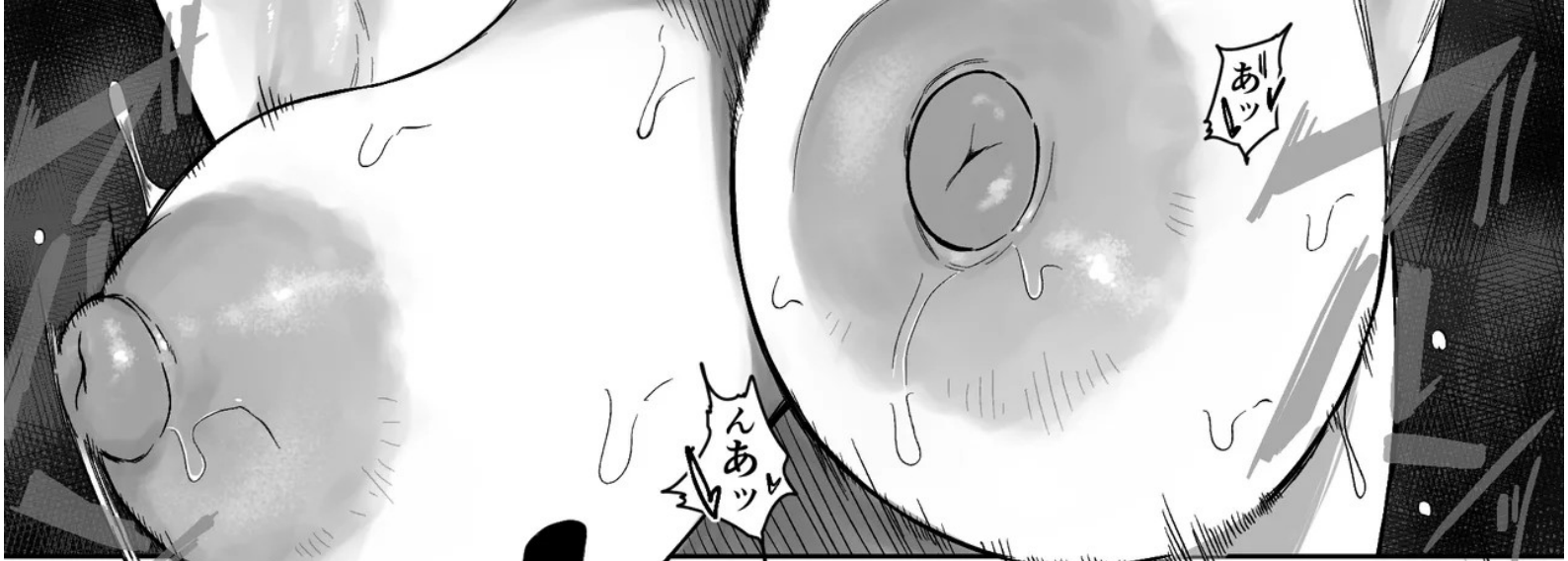
俺が
あんな事を
言わなければ

もっと
大人になれ!!



こんな事には――





そこにいたのは

創ちゃん!

あ...

あ...

か

そこにいたのは

創ちゃん!

あ...

あ...

か

異様に発達した
身体と

俺の見た事がない
顔をして

異様に発達した
身体と

俺の見た事がない
顔をして



奏は最初から
目を付けて
られていて

あッ...

ッ...か
奏ッ...!!

だけど
チビで
ガキだから

強制的に成長
させられたんだ

創ちゃん...

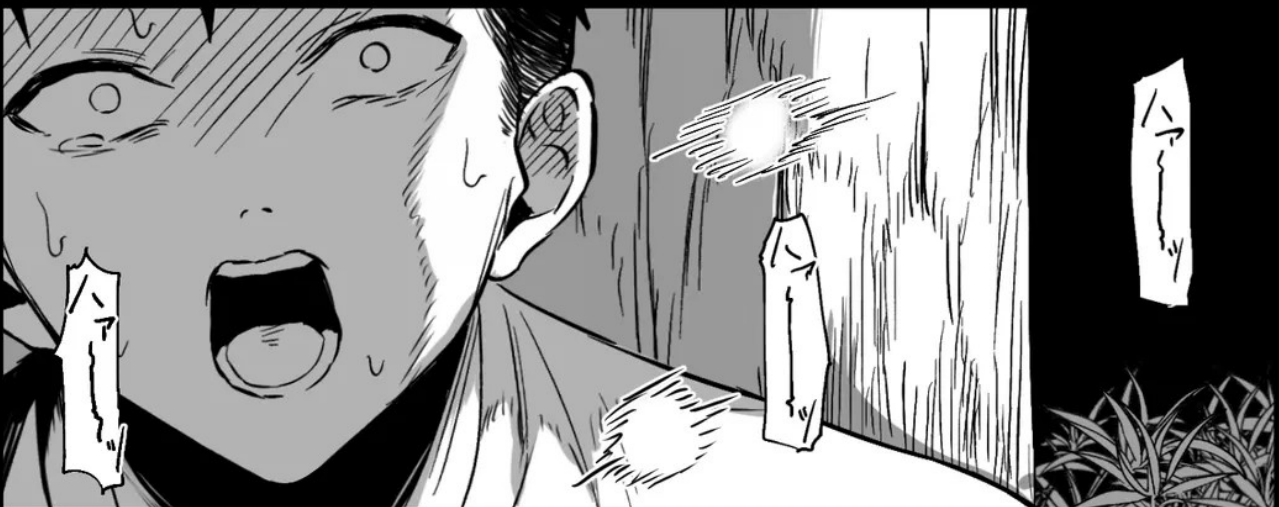
“ガミサマ”
サイズ
に見合う身体へと

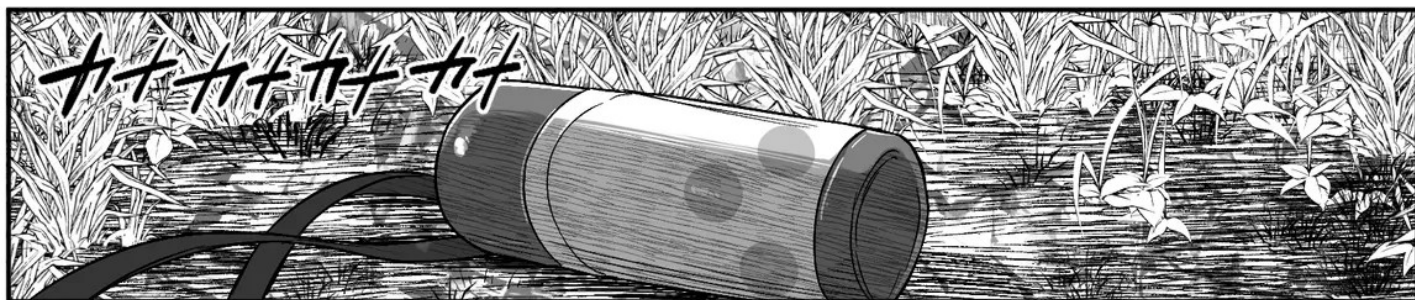
オオオ





ねえ
創ちゃん





「僕の田舎には、“上位存在”がいるー。」

